

**製品名: CCRL2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08168**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CCRL2
別名	CCRL2; CCR11; CCR6; CKRX; CRAM; HCR; C-C chemokine receptor-like 2; Chemokine receptor CCR11; Chemokine receptor X; Putative MCP-1 chemokine receptor
遺伝子 ID	9034.0
SwissProt ID	O00421
免疫原	抗血清はヒト CCRL2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

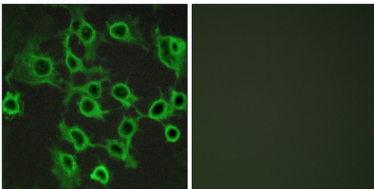
**背景**

この遺伝子はケモカイン受容体様タンパク質をコードしており、これは7回膜貫通型タンパク質であると予測され、CCR1と最も密接

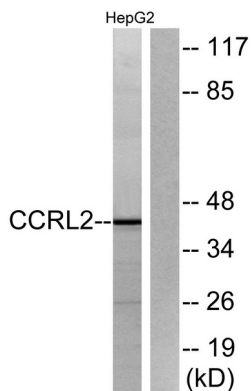
に関連しています。ケモカインとその受容体を介したシグナル伝達は、炎症部位へのエフェクター免疫細胞のリクルートメントに不可欠です。この遺伝子は、初代培養好中球および初代培養単球で高発現しており、好中球の活性化時および単球からマクロファージへの分化過程においてさらに発現が上昇します。この遺伝子の機能は不明です。この遺伝子は、ケモカイン受容体遺伝子クラスターが位置する領域にマッピングされています。[RefSeq 提供、2008年7月]機能: CCL2、CCL5、CCL7、および CCL8 の受容体。組織特異性: 脾臓、胎児肝、リンパ節、骨髄などの免疫組織で豊富に発現しています。肺や心臓でも強い発現が見られます。、

## 研究分野

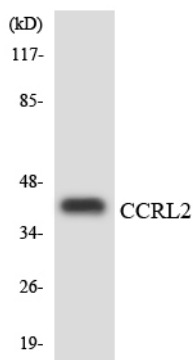
## 画像データ



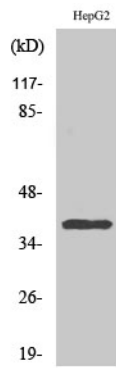
CCRL2 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CCRL2 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CCRL2 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CCRL2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析